

令和元年8月 岡崎市文化財保護審議会会議録

開催日時：令和元年8月22日（木） 午前9時30分～正午

開催場所：岡崎市役所分館2階 202号室

出席委員：12名

加藤安信委員（会長）・野本欽也委員（会長職務代理者）・内田尚之委員・荻野嘉美委員・奥田敏春委員・杉坂美典委員・杉野丞委員・鷹巣純委員・山田伸子委員・渡邊幹男委員・堀江登志実委員・荒井信貴委員

欠席委員：0名

説明のために出席した事務局職員：10名

社会教育課：中村耕課長・柴田英代副課長・菅沼貴之岡崎城跡係長・岡山幸男文化財係長・山口遥介主査・浅井幸恵主査
公園緑地課（担当課）：横山晴男課長・河合寿八計画係長
まちづくりデザイン課（担当課）：井尻智久歴史まちづくり係長
・塚本拓也技師

傍聴者：なし

議事内容

1 諮問事項

- （1）市指定史跡岡崎城跡の現状変更（岡崎公園石碑等工作物の撤去）について
- （2）岡崎市指定有形文化財（建造物）日吉山王社本殿の現状変更について

2 協議事項

- （1）市指定史跡の現状変更について【非公開】
- （2）市指定史跡岡崎城跡の現状変更（歴史文化遺産解説板の撤去新設）について
- （3）市指定史跡岡崎城跡の現状変更（清海堀発掘調査）について

議題及び議事の要旨

1 諮問事項

- （1）市指定史跡岡崎城跡の現状変更（岡崎公園石碑等工作物の撤去）について

【社会教育課説明】

岡崎公園内には寄贈品や記念物等、史跡の構成要素としてふさわしくない施設や構造物が存在している。「岡崎城跡整備基本計画」に基づき、岡崎城跡の本質的価値を構成する要素に影響を及ぼす施設(石碑工作物)を撤去し、史跡としての価値を高めていくことを目的とする。

【質疑応答】

委員：史跡指定地外への再配置について、候補地はどこか。

事務局：中央総合公園への仮置きを予定している。

委員：仮置きに際して、どのように設置するのか。積んだ状態で置くのは危険ではないか。

担当課：分解し、置く形となる。

委員：銘板に「記念」とあるが、何が記念で寄贈されたものか。この石そのものか、あるいは記念植樹が行われ、銘板はその表示であるのか。

担当課：記録が残っておらず、不明である。

委員：この石自体を「記念」として設置したということか。

担当課：現状から鑑みるに、恐らくそうであろうと思う。

委員：銘板にはご降誕記念とある。

委員：神社などに同様の内容のものが多く設置される傾向にある。石そのものに意味があるのかもしれない。

寄贈者の記録は残っていないのか。寄贈者の確認を取るべきでは。

担当課：資料は見つからなかった。また、寄贈者を探したが該当者は見つからなかった。

委員：仮置き後の取り扱いを決める必要がある。寄贈物の取り扱いを定めたガイドラインなどの策定が必要である。

委員：寄贈者のお子さんなどがご存命である可能性もある。設置物について、市民に広報などで広く確認を取り、寄贈者ないしその御親族の意向を確認の上、廃棄や再設置を検討すべきではないか。

委員：寄贈物の取り扱いについて方針を決め、記録を取りつつ再配置を進めてほしい。

諮問結果：可とする。

(2) 岡崎市指定有形文化財（建造物）日吉山王社本殿の現状変更について

【社会教育課説明】

これまで日吉山王社本殿には、屋根の傷みの拡大を防ぐために昭和 50 年代頃に設置された覆屋がかかっていた。屋根は瓦の荷重により軒回りが下がってきており、現在の構造では瓦の重みに耐え難い。そのため、今回の修理で過去の調査において判明しているこけら葺きへの復原修理を行う。

また、本殿は過去の雨漏りを原因とする腐食などが進み、様々な部材に破損や欠損が生じている。特に、正面東側や背面西側では桔木などに腐食が生じて、垂木が一部崩れ落ちているため、木部の部分修理も行う。

【質疑応答】

委員：瓦葺にした時期を知りたい。

事務局：江戸時代後半である。

委員：図面に社務所とあるが、現在の用途は異なるのではないか。

事務局：現在売店になっている。

委員：県・国指定文化財を目指しているとあるが、保存活用計画を作成すべきでは。

当該計画に則った事業でなければ国の補助金が付きにくくなる。策定し、将来的な屋根の吹き替えを計画内に記載すると良い。

事務局：地元と協議する。

委員：保存活用計画があれば、県指定から国指定へ上げやすくなる。

委員：解体修理に際して記録を作成する点にからめ、地元と協議して頂けると良い。

七間社流造は県内に他にいいのか。

事務局：豊川市星野神社が同じ七間社流造である。

諮問結果：可とする。

3 協議事項

(1) 市指定史跡の現状変更について【非公開】

(2) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更（歴史文化遺産解説板の撤去新設）について

【社会教育課説明】

これまで所管ごとに異なるデザインの歴史文化遺産解説板を設置してきたが、それらの撤去及び統一された解説板の新設を図るものである。情報内容、表現形式を統一したデザイン及び階層化したサインシステムにより、各所に点在する歴史文化遺産の価値と魅力をわかりやすく情報発信し、来訪者の回遊性の向上を図る事を目的とする。

前回審議の際、撤去新設は事務局判断とするとあり、令和元年度は別紙サインの新設を予定している。

【質疑応答】

委員：誘導板の誘導対象は、観光施設か、史跡か。

担当課：両方を案内するが、主目的は観光誘導である。

委員：誘導対象の表記を二の丸とするか能楽堂とするか、などでサインの性質が変わってくる。サインは、史跡としての岡崎城をある程度示す内容となっているか。現在あるサインを統一するという理解で良いか。

担当課：現在あるサインを統一するものである。

委員：公園内に史跡の誘導板は現在ないのではないか。全体図を設置予定であるので、そこで史跡の位置を把握し、個々の史跡へ行った先で解説を読むものと想定している。

委員：公園内の施設案内の為のサインであると理解している。

委員：撤去するサインについては、記録を残す予定か。

事務局：記録を残す予定は無い。

委員：主要駅等から岡崎城への誘導は現在実施しているか。観光回遊動線なども含めた中心市街地におけるサイン整備があると良い。来街者がリピーターとなるような工夫を。

担当課：中心市街地におけるサイン計画を進めており、順次整備の予定である。

委員：どのような街をつくるかのビジョンを示したうえで整備してほしい。

委員：岡崎城跡内に新設予定のサインについて、案内板、誘導板、解説板に加えて情報案内板という種別があるが、このサインはどういったものか。

担当課：情報案内板は大型のサインで、岡崎城跡も含めた周辺市街地および総構えの案内を行うものである。来年度設置を予定している。

委員：サインシステムとして、情報案内板で情報を得た利用者は、案内板や誘導板を通して各施設へ誘導され、解説板を見るものと思う。まず起点となる情報案内板に行きつける整備をしてほしい。

委員：岡崎城には多くの出入り口がある。主要な起点から誘導できると良い。

担当課：出入り口には案内板を設置し、それらを起点に誘導及び解説を予定している。

委員：サインシステムを利用者に分かりやすく案内できるといい。また、地名に言及する事が多々あると思われるが、地名へのルビなどで来街者への配慮を行ってほしい。

委員：サインと連動したアプリを作成する予定はあるか。アプリと連動すれば、GPSなどで現在地の把握が容易になる。

担当課：サインにQRコードを設置予定し、webで対応する予定である。なお、岡崎おでかけナビへのリンク等を検討している。

委員：看板設置に先んじてアプリを作ると良い。

委員：資料に現状変更の書式案が含まれていないが、今後提出されるという理解で良いか。

事務局：今年度撤去分を現在検討中であり、現状変更の様式の提出が困難であったが、今後提出の見込みである。なお、事務局判断での撤去を前回審議でご了承頂いているため、今回の協議をもって撤去とし次回審議会でご報告をする。撤去にあたっては市職員の立ち合いの元、行うものとする。

委員：板面について、サンプルを拝見したい。解説板の内容が特に気になる。

事務局：解説板の内容については、岡崎城跡整備委員会で審議の上、設置を進めている。板面の取り扱いを検討したいと思う。

委員：史跡誘導の側面をどのようにサインに織り込むか、史跡への価値付けを含めた誘導を検討してほしい。また、解説の精度の高い解説板の設置を求めたい。

委員：景観審議会においてもサインシステムが審議されており、その際はサインの模型が示されていた。

都市計画部局の関心はデザインに重きが置かれており、板面の内容の他、市内案内のシステムや、板面の書体、文字ポイント数等はデザイナーが決められているのではないか。

事務局と内容を良く詰めて、板面の確認を文化財保護審議会で行えると良い。

事務局：内容については岡崎城跡整備委員会でお諮りしている。今後、ご報告という形で皆様へお知らせしていきたい。

委員：案内システムを分かりやすく紹介して頂けると良い。

委員：公園内の回遊動線について、市としてどこを見せたいかを踏まえた検討の必要がある。動線設定の上、サイン設置を予定しているのか。

委員：公園内施設誘導にウェイトを置いたサインであると考えている。回遊動線については、城跡に関心のある人と、公園に関心のある人で分離するものと思われる。今回整備予定のサインシステムは、史跡の案内誘導のためのみに構築されたものではないと理解している。

委員：岡崎城跡整備委員会で板面等を検討している。既存の人の流れを大きく変えられないこともあり、まずはバラバラなデザインのサインの統一を第一として行うものである。

委員：岡崎城として来街者へ見ていただきたい点が伝わるようなサインとする必要がある。

委員：現在乱立するサインを撤去し、シンプルにまとめる趣旨であると理解している。文化財保護の観点からも一歩前進する事業であると思う。出た意見を踏まえ、進めてほしい。

(3) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更(清海堀発掘調査)について

【社会教育課説明】

『岡崎城跡整備基本計画 平成28年度改訂版』に基づき、岡崎城跡の城郭遺構を把握することを目的とした発掘調査を行うため、市指定史跡岡崎城跡の現状変更を行う。調査対象地は清海堀(本丸と持仏堂曲輪との間の堀)とし、堀最深部の確認及び石垣埋没部の確認、堀構築方法の確認を目的としたトレンチを3か所設定する。合計調査面積

は 117.6 m²を予定している。調査は岡崎城跡の曲輪遺構を解明することを目的とした発掘調査であり、史跡の価値の向上に資する調査である。ただし、不要な掘削は最小限にとどめ、史跡への影響を最小とするものとする。

【質疑応答】

委員：トレンチ 1 と 2 の掘削で、堀上部の石垣が台形状に張り出す状況を確認することができるか。

事務局：横方向の幅を取らねば難しい。必要性があれば、横方向に拡張した調査区とする可能性もある。

委員：トレンチ掘削の際、重機による掘削はやむを得ないと考えている。掘削後の養生をどのように行うかを事前に検討しておく他、切岸の調査もしておくが良い。調査延長をもう少し延ばしても良いのではないか。調査中の事故の無いよう対応を事前に考えておいて欲しい。

委員：トレンチをもう一本入れることは可能か。

事務局：深度 3 m のものは予算的に難しいが、台形状の張り出しを確認する場合、浅い位置で確認できるはずなので、トレンチ切岸側の調査区を伸ばすことは可能かもしれない

委員：地下レーダーを以前清海堀に入れたことがあれば、深度想定が付くかもしれない。

委員：清海堀にはレーダーを入れたことは無いと記憶している。本丸の中と土橋については実施している。

委員：目的を達成できるよう、発掘調査を進めてほしい。

4 その他

(1) 次回以降の審議会開催について

次回審議会は令和元年 11 月に実施予定